

金融と三都の発達

徳川家康は金貨として小判・一分金などを、銀貨として丁銀・豆板銀を鑄造・発行した。後に銅銭も大量に鑄造され、幕府制定の三貨が正貨として全国に通用する体制が形作られた。しかし、江戸を中心とした東日本では金遣い、大坂を中心とした西日本では銀遣いが慣行とされ、統一的な価値尺度は容易に生成しなかった。

○貨幣の流通

●貨幣の供給

同じ規格・品質で全国に通用した初めての金・銀貨幣は、

1600年頃に徳川家康が発行し、⁽¹⁾ _____ と総称された。

⇒近世の初めには、輸入貨幣や私鑄^{しちゆうせん} 銭・われ銭など悪質な銭貨も混用されたが、

17世紀前半、銭貨^{ちゆうぞう} _____ が大量に鑄造された。

⇒金貨・銀貨・銭貨を⁽³⁾ _____ と総称し、17世紀中頃までに全国に普及した。



しかし、各貨幣は鑄造所・通用の仕方・主たる流通圏が異なった。



図1 小判・一分金

<三貨>

	金貨	銀貨	銭貨
鑄造所	⁽⁴⁾ _____	⁽⁵⁾ _____	⁽⁶⁾ _____
場所	江戸・京都	すんぶ 駿府・伏見 ふしみ *のちに江戸・京都	江戸・近江坂本 おうみ *のちに全国各地
統括者	後藤庄三郎		
通用の仕方	⁽⁷⁾ _____ 貨幣 *枚数で価値決定	⁽⁸⁾ _____ 貨幣 *重量で価値決定	計数貨幣 *枚数で価値決定
種類	小判・一分金など	丁銀・豆板銀など	寛永通宝など
流通圏	主に東日本 (金遣い)	主に西日本 (銀遣い)	全国で流通
単位	りょう 両・分・朱 ぶ しゆ	かん 貫・匁・分・厘・毛 もんめ ぶん りん もう	かん 貫・文 もん



図2 丁銀・豆板銀



図3 寛永通宝 図4 藩札

◇金座・銀座の場所は、その後江戸に一本化

◇金貨の単位は「1両=4分」「1分=4朱」の4進法

◇三貨の換算率を「金1両=銀50匁=銭4貫」としたが、実際は相場で常に変動

●紙幣の限定的な流通

17世紀以降、諸藩は三貨の不足や財政の窮乏を⁽⁹⁾ _____ の発行で補った。

●貨幣流通の促進

貨幣流通は、三貨間の両替や秤量^{しょうりょう}をおこなう商人⁽¹⁰⁾ _____ に促された。

⇒大坂や江戸の信用・資力の大きい(10)は特に本両替と呼ばれ、

幕府・藩の公金^{すいとう}の出納^{かしつけ}や貸付なども担った。

◇本両替…江戸に呉服店「越後屋」を開店した⁽¹¹⁾ _____ や、

新田開発でも知られる大坂の^{こうのいけ} 鴻池が有名

商法「現金かけねなし」



図5 駿河町越後屋呉服店

○三都の発達

●三都

全国への商品流通を担う市場を特に全国市場という。
 ⇒重要な全国市場の「江戸・大坂・京都」を三都と総称し、
 17世紀後半、三都は世界有数の大都市へと成長した。

<江戸>

- ①別称は「⁽¹²⁾ _____」
- ②総人口 **100万** を有する日本最大の消費都市
- ③幕府の諸施設、大名の屋敷（藩邸）、旗本・御家人の屋敷が存在
- ④町人地には商人・職人や日用（日雇）など 50万人の町人が居住
- ◇⁽¹³⁾ _____ という商人が、旗本・御家人の蔵米の販売代行や金貸し

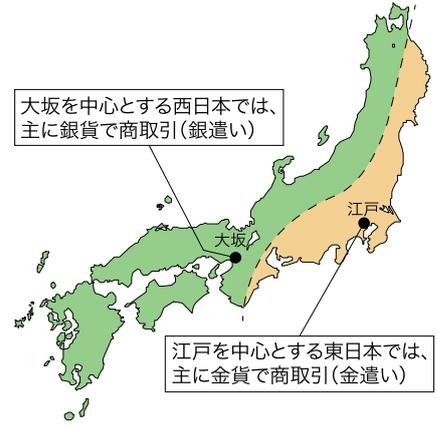


図6 西日本・東日本

<大坂>

- ①別称は「⁽¹⁴⁾ _____」
- ②全国の物資の集散地として栄えた商業都市
- ③幕府は西日本や大坂の支配の要に大坂⁽¹⁵⁾ _____ ・大坂町奉行を設置
- ④諸藩の大名は領内の年貢米・特産物の倉庫兼取引所である⁽¹⁶⁾ _____ を置き、
⁽¹⁷⁾ _____ と総称されるこれら年貢米・特産物を販売して貨幣を獲得
 ⇒⁽¹⁸⁾ _____ と呼ばれる商人が(17)の販売・保管をおこない、
⁽¹⁹⁾ _____ と呼ばれる商人がその販売代金の出納・藩への送金を担当
- ⑤商人が全国から大坂に集めた商品を⁽²⁰⁾ _____ と呼び、江戸や全国に出荷
- ◇(16) …大坂に最も多いが、江戸・長崎・大津など幕府の直轄都市にも存在

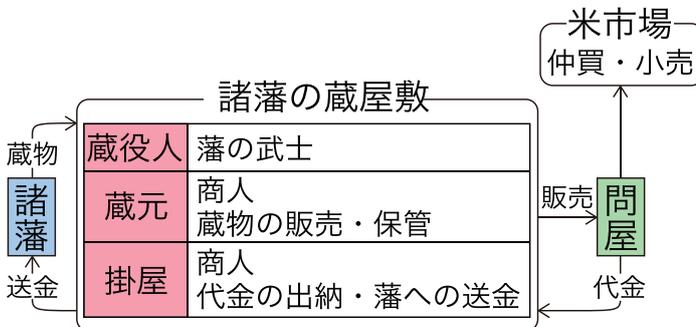


図7 蔵屋敷の運営



図8 大坂の蔵屋敷

<京都>

- ①天皇・公家が居住し、寺院の本寺・本山や大神社が存在
- ②幕府は朝廷・公家・寺社との関係保持や畿内一帯の支配のために、
⁽²¹⁾ _____ ・京都町奉行を設置
- ③呉服屋・両替商など大商人の本拠地が多く存在
 ⇒⁽²²⁾ _____ 織や京染・京焼などの手工業が発達
- ◇(22) …応仁の乱の西軍山名持豊の陣地



図9 京焼



図10 西陣織

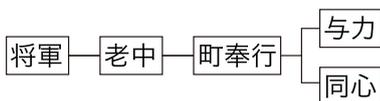


図11 幕府の江戸支配



図12 幕府の大坂支配



図13 幕府の京都支配